

# 協力

61



伝道団体連絡協議会

〒101-0062  
東京都千代田区神田駿河台2-1 OCC 614号室  
Tel. 03-3291-5035  
www.dendankyo.com

## FRONT ESSAY

### 主の忍耐



伝団協・総務  
浅見鶴蔵

「人の子よ。ぶどうの木は、森の木立の間であって、その枝が、ほかの木よりど  
れだけすぐれているのか。」エゼキエル15:2

「さあ、わが愛する者のためにわたしは歌おう。そのぶどう畑についてのわが  
愛の歌を。」イザヤ5:1

神は、エルサレムを森の木立の間にある、ぶどうの木であると言っています。しか  
しそれは、周りの木と同じように実を結んでいない木である、という意味だと思います。

旧約聖書では、イスラエルは、ぶどうの木あるいはぶどう畑にたとえられています。  
しかし、イスラエルは、甘いぶどうの出来ないぶどう畑になってしまいました。本来  
は美しいぶどう畑ですが、人々の不信仰のために荒らされてしまったのです。実を結  
ばないぶどうの木は、他の木と比べても良いところはありません。枝は曲がりくねり、  
柔らかいので、何の役にも立ちません。せいぜいたきぎにしかならないでしょう。

「見よ。それはたきぎとして火に投げ入れられ、火がその両端を焼き尽くす。」(エ  
ゼキエル15:4、5)

これは、北はアッシリア、南はエジプトから攻撃され、また中心からは、バビロン  
から攻撃されるという意味だと思います。イスラエルの民は、神に対する背信の行為  
があまりにも多かったので、神の激しい、厳しい裁きを受けることによって、再び神(主)  
を知ることになりました。(エゼキエル15:6、7)

主はご自身をぶどうの木、父なる神を農夫、私たち信仰者を枝にたとえられました。  
「わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父は農夫です。わたしの枝で実を結  
ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶ  
ために、刈り込みをなさいます。」(ヨハネの福音書15:1~2)

信仰者に必要なことは、主から、刈り込みを受けることではないでしょうか。改めて、  
主にとどまり、信仰にとどまることを許されている喜びの中にいますが、まだまだ、  
足りないことが多々あります。私に適切な刈り込みをしてください。

イエスはこのようなたとえを話された。「ある人が、ぶどう園にいちじくの木を植え  
ておいた。実を取りに来たが、何も見つからなかった。そこで、ぶどう園の番人に言っ  
た。『見なさい。三年もの間、やって来ては、このいちじくの実のなるのを待っている  
のに、なっていたためしが無い。これを切り倒してしまいなさい。何のために土地を  
ふさいでいるのですか。』番人は答えて言った。『ご主人。どうか、ことし一年そのま  
まにしてやってください。木の回りを掘って、肥やしをやってみますから。もしそれで  
来年、実を結べばよし、それでもだめなら、切り倒してください。』(ルカ13:6-9)

私たちの弱いところ、忍耐力のないところ、多くの欠点を、よくご存じの主にお任  
せして、神からの小さな警告を十分聞き、反省をし、認めて、神の忍耐に感謝した  
いと思います。



## 財団法人 日本聖書協会

JAPAN BIBLE SOCIETY

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 (聖書館ビル)

Tel: 03-3567-1988 Fax: 03-3567-4451

<http://www.bible.or.jp/> info@bible.or.jp



総主事  
渡部 信

1875年に、スコットランド聖書協会により聖書普及事業が横浜で始められてから、今年で132年になります。今年是新共同訳聖書発刊20周年にもあたり、新しい時代に向けた聖書普及を模索しながら歩んでいます。

日本聖書協会の職員は、2007年9月現在30名で、その活動は6つの部から成り立っています。総務部では庶務・経理・人事・建物管理などを担当しています。

出版部では、新たな読者層の獲得を目指し、時代の要請に応じた聖書の製作・印刷を企画しています。「バイブルキューブ」、「聖書新共同訳MP3版（歌詞表示機能つき）」など活字出版のみならず、音声朗読CDや電子出版など最新のメディアにも対応した出版を行っています。

翻訳部では、出版部同様、出版物の企画、そして聖書の翻訳に直接関わる業務にあたっています。また、銀座聖書館7階には約520言語、5千冊の聖書を所蔵する聖書図書館があり、貴重な翻訳資料の保存・公開、そして聖書に関するレファレンスに応じています。この聖書図書館はどなたでもご利用いただけます。

頒布部では、キリスト教専門書店や一般書店などの様々な流通機構を通じて、全国の教会、学校、団体、個人の方々へ聖書をお届けしています。担当者が書店を巡回して注文を受けた聖書は、埼玉県狭山市にある配送センターから全国に発送されています。

募金部では、海外に聖書を贈る働きや、国内の点字聖書、手話訳聖書製作推進のため、教会訪問、DMの他、パネル展などイベントの開催を通して後援会へのご入会の呼びかけと募金活動を行っています。

広報部では、聖書への関心を高めるためにイベントや広報誌、インターネットを通じた活動を行っています。イベントとしては年に5回の「聖書と音楽の出会い」を全国で開催し、「SOWER (ソア)」、「年報」、「英文ニュースレター」などの広報誌を発行しています。インターネットサイトでは（携帯用サイトも含む）、日々の聖書日課の掲載をはじめ、頻繁に更新を行っています。

また現在、世界で145の聖書協会がUBS（聖書協会世界連盟）に加盟し、200以上の国や地域で聖書普及の働きをしています。海外のホットニュースは随時、UBSのウェブサイトで更新され、その中の幾つかを月に1、2度ほど日本聖書協会のサイトで翻訳してご紹介しています。

日本聖書協会は、超教派の団体として、これからも聖書の普及活動に努めてまいります。



聖書館ビル外観



ホームページ

## 教会離れを 食い止めるには

文・姫井雅夫



2007年度のセミナーは10月4日(木) 10:00~16:00、お茶の水クリスチャン・センター9階会議室で開催された。出席は講師を含めて16名だった。テーマは「教会離れを食い止めるには」。講師は三谷康人師(教会離れの現状)、日下部繁師(その対策)。

「教会離れ」と言ってもクリスチャンの中に「離れている」という自覚はほとんど無いかもしれない。韓国ではひとりのクリスチャンが平均して5つの教会と交わりがあり、時に応じてそれらの礼拝に出席している。一つの教会に縛られるという感覚は無いと聞いた。そして、「なぜ日本では会員制を取り、会員を縛り付けるのですか。そのようにするから、教会は堅苦しい、規則規則で縛り付けていると信者が悩むのだ」と言われた。最近ではアメリカの教会も会員制をもち、月定献金や奉仕の責任もない。かといって教会に奉仕をする人がいなくなったり、献金で困ったことが無い。のびのびと、楽しい教会生活を喜んでいるという。先日、ある機関紙で「回遊型クリスチャン」と言う記事を読んだ。ある特定の教会で礼拝を守るのではなく、都合のよい教会で礼拝を行なう。いろいろな教会を回遊している。このようなタイプのクリスチャンが増えているようである。

開拓伝道をしていた時、ひとりの人が礼拝に来てくださるかどうかは大きなことだった。なぜ来ないのだろうと悩んだ。その時、先輩の牧師が、「放し飼いでいると思わないさい」と励ましてくれた。

各地方教会の礼拝の仕方や牧師の個性、役員とのわだかまり、信徒同士のいじめなどいろいろな理由で「教会離れ」が起こる。

ギャラップの調査によると日本のクリスチャン人口は全人口の4%だと言う。ところがCISなどの調査では1%、しかもその1%のうち3分の1ぐらしか礼拝に出ていない。あとの人はどこへ行ったのだろうか。まさに深刻な「教会離れ」である。調査によると全人口の23%の人がキリスト教に対して好意をもっている。しかし教会には行きたくないという。



講師の三谷康人師(上)と、日下部繁師(下)

三谷師は「教会が内向きで、敷居が高い、自己中心的で閉鎖的である。それに堅苦しく、暗く、冷たい印象を与えている」と現状を分析された。

日下部師は、「21世紀を迎えた時、『主の年2000年、ミレニアム』と称して、各地でフェスティバルが行なわれた。7年経った現在、教会から子ども、青年の姿が消え、教会が無牧になり、姿を消している」と今の姿を述べ、対策を提案した。教会運営や伝道に力を入れ、信徒のケアがおろそかになったのではないか。日本ではクリスチャンになって2年ぐらいで3分の2はいなくなる、と古屋安雄師が述べている。信徒のケアをする牧師が転任したり、教会が少し上向きになると分裂が起こる。信徒教育に力を入れると「教会離れ」をくい止められるのではないか。教会が神の家族としての交わりをもち、アットホームで、聖書に根拠を置き、霊的な支えと祈りをもってケアを厚くしていけば、簡単には「教会離れ」は起こらない。教会が地域共同体の一員であると住民に理解されれば、地域住民は教会に押し寄せてくる。教会が活き活きと働き、受け皿を広げて立つなら、人々の方から教会に集まり、定着する。クリスチャン・ホームの形成も定着には欠かせない要素であると結論を述べた。

教会の苦悩を共有して伝道団体として何が出来るかを模索していきたい。引き潮の後には満ち潮が来る。

※伝団協ホームページに関連記事があります。ぜひご覧ください。→[www.dendankyo.com](http://www.dendankyo.com)

## ●日本国際飢餓対策機構

新潟県中越沖地震の被災者救援のために、7月25日～8月5日まで新潟聖書学院を拠点とし、2名のスタッフと数名のボランティアを派遣し、柏崎市およびその近郊において被災者支援の働きを行いました。被災された人々の全人的必要のためにお祈りください。

## ●こころの友伝道全国連合会

「第54回こころの友伝道全国大会」が下記のように開催されました。主題：「祝福される教会」/時：2007年8月20日(月)～22日(水) /所：天城山荘(伊豆) /ゲスト講師：日本基督教団総会議長、同聖ヶ丘教会牧師 山北宣久師

## ●太平洋放送協会 (PBA)

各地の放送伝道を支える会と共に進めている放送伝道の働きが、さらに用いられていき、ラジオ「世の光」TV「ライフ・ライン」の放送地域がさらに拡大していきますように。

## ●日本キリスト伝道会

8月27～29日に行われる「第39回日本伝道の幻を語る会」の主講師の、岸義紘師と山口隆康師を初めとする各奉仕者の御用のためと、各エバンジェリストの働きのために。また超教派の働きを通して、一千万救霊のために力強く前進できるように。

## ●全日本リバイバルミッション

10月19日(金)～21日(日)「ハワイリバイバルミッション」を、オアフ島ホノルルカピオラニ公園内、野外音楽堂「ワイキキシェル」にて行います。イエス・キリストさまを知らない方々が救われることができるように、お祈り下さい。

## ●福音主義医療関係者協議会 (EMF)

会長・役員・幹事が改選され、事務局も大阪に移転します。新体制のために。8月のキャンプ(7～10日)、国外研修(16～25日)、10月6日の関西シンポジウムのために。

## ●日本キャンパスクルセード・フォー・クライスト (CCC)

全国47都道府県にある主要大学に働き人を配置できるよう。そのため地元教会、海外の各団体ともよきパートナーシップが築けるよう。日本人スタッフがさらに与えられるよう。

## ●高校生聖書伝道協会 (hi-b.a.)

夏のhi-b.a.キャンプ(国際・関東・関西、計6キャンプ)が祝されるように、秋からの特別活動、定期集会在が祝されるようにお祈りください。今年4月から荒井恵理也兄が代表スタッフ(高校生伝道の現場の総責任者)に就任しました。重責を担う荒井兄のために。

## ●クリスチャン文書伝道団 (CLC)

・9/8(土)にお茶の水店が新装オープンします。今まで以上に、多くの人々にご利用いただけるように。また、未信者の方々もより多く来店され、キリスト教に触れる機会となるように。  
・これから数年、引退者が続きます。新たな働き人が主によって与えられますように。

## ●お茶の水クリスチャン・センター

1. ゴスペルを歌おう(第1、第3日曜日 16:00～)
2. 賛美と聖書の集い(第2、第4金曜日は10:30～、第3木曜日は19:00～)
3. フライデーナイト(毎週金曜日 19:00～)
4. ITCN集会(毎週月曜日 11:00～、15:30～、19:30～)

## ●国際ナビゲーター

6月から8月上旬にかけて行われた「サマーインパクトジャパン」で、米国からのサマーチームが、日本の5ヶ所の地区の大学で学生に福音を伝えていきました。伝道の実として救われた者が成長してキリストの弟子とされていきますように。

## ●J.T.J 宣教神学校

たび重なる、新潟地方の被災地の人びとに、神様の温かい慈しみと、大いなる恵みがそそがれますように。そして、一日も早い復興、復旧がなされますように。

## ●小さないのちを守る会

今、驚くべき勢いで10代の性感染症が急増しています。この危機的課題の解決の鍵を持っているのは教会以外にありません。伝道以外にはないのです! 滅び行く者の血の責任を痛感し、具体的に叫び、祈り続けてください。神の秩序回復のために! 救霊の急務を痛感しています。

## ●アジアアクセス

ダグラス・パーゼル総裁がローザンヌ国際議長職に専任するために総裁を本年9月末で辞任致します。ブルース・ジョンソン理事総裁代行のリーダーシップのためにもお祈りください。

## ●いのちのことば社

福音を伝えるために、多岐にわたり働きをすすめております。クリスマスに向かって多くの出版や計画をしておりますが、ひとつ一つが主に導かれ豊かに用いられますように。また、全国のキリスト教書店の働きが守られ祝福されますようにお祈り願います。

## ●総動員伝道

- \*8月20～24日、泉南郡田尻町でトラクト配布。
- \*8月28日に「総動員伝道」紙の発送作業をします。機関紙が主に用いられ、諸教会に宣教のビジョンが与えられるように。
- \*9月7～10日 姫井が渡米し、帰国者伝道についての会合をします。海外で信仰をもって帰国した人々が教会に繋がるように。
- \*9月24～10月15日 アメリカのバスケットボールのチームが来日し、諸大学、高校で試合とクリニックをし、伝道します。彼らが用いられるように。
- \*11月15～19日 中国・上海で姫井が日本人伝道をしてきます。

## ●日本伝道者協力会

- \*9月3～5日 リトリートと総会  
テーマ：日本の教会が抱える現代の課題  
講師：大川従道、尾山令仁、岸義紘、高橋敏夫、福澤満雄
- \*10月19～20日 仙台にてクリストファー・サン伝道大会が開かれます。多くの人々が救いに導かれるように。